

令和6年度 第1回 牛津高等学校 学校魅力強化委員会（学校運営協議会）議事録

「佐賀県立学校における学校運営協議会の運営に関する要綱」第8条第2項に基づき、次のとおり、第1回学校魅力強化委員会（学校運営協議会）の会議録を公表します。

開催日 令和6年5月8日（水） 於 牛津高等学校会議室
開催時間 17:00～18:10
出席者数 委員10名 事務局3名 教育振興課1名 SAGA コラボ校内委員2名
出席者 <魅力強化委員>
長戸委員、高元委員、野口委員、横尾委員、七浦委員、大坪委員
ドジソン委員、嘉村委員、山本委員、江頭委員（校長）
<事務局>
鍋島（教頭）、古川（事務長）、池田（主幹教諭）
<SAGA コラボ校内委員>
峯（家庭科主任）、中島（魅力化コーディネーター）
<教育振興課>
細國指導主事

【会議の内容】

- 1 開会
- 2 学校長挨拶
- 3 教育委員会事務局挨拶
- 4 任命状交付
- 5 参加者自己紹介
- 6 協議
 - (1) 会長・副会長の選出（教頭）

横尾委員から、会長に長戸委員、を推薦する提案があり、承認される。副会長は長戸会長から高元委員が指名され承認される。この後、長戸会長が議長として登壇し、進行を交代する。

牛津高校学校魅力強化委員会の3つの部会について（主幹）から説明

ア) 昨年同様3つの部会（地域連携部会・魅力発信部会・学校評価部会）を設置し、学校評価部会委員は教科書の選定委員を兼ねること、今年度も部会ごとの開催ではなく、学校魅力強化委員会の中で部会の協議を行うことを提案し承認される。

イ) 部会委員及び部会長について原案のとおり承認される。
 - (2) 令和6年度牛津高校 SAGA コラボレーション・スクール事業計画について
令和6年度事業実施計画について（主幹）から説明<<別紙資料>>
 - ア) 取組テーマ
 - イ) 現在の学校としての課題及び目標と成果指標
 - ウ) 令和6年度の実施計画
 - エ) 所要経費
 - オ) 校内組織体制

- (委員 1) 県外からの志願者を増やすために、地域で受け入れをしてくださいという話が以前にもあったが、行政側である県と小城市の予算だてはどのようになっているのか。
- (指導主事) 有田工業高校で地域未来留学という事業を行っており、全国から生徒を受け入れており町で受け入れをしている。生徒は下宿やシェアハウスで生活をしている。町から支援金という形で毎月3万円の補助を出している。内訳は3万円の3分の1が県からの補助である。このように県が一部負担しているが、基本的には町が中心になって支援をしている状況である。
- (委員 1) 下宿などで受け入れた場合、3万円の補助があるが、残りは受け入れをした家庭が支払っているのか。
- (指導主事) 残りの分は下宿している生徒が支払うことになっている。
- (委員 2) 小城市としては、昨年このような話を受けて庁内で情報共有をし、受け入れができるかどうか検討をしているが、予算的な対応はまだ行っていない。
- (委員 1) 県と小城市でしっかり話し合いをしていただき、その後、地域に示してもらいたい。そうすれば地域としても色々なお手伝いができる。
- (会 長) 有田町の場合、下からモーションをかけたのか、上からかけたのか。
- (指導主事) 有田の場合は県と町が協定を結んでから始まっている。
- (会 長) 早く取り掛からないと次の生徒募集に間に合わない。上から来たほうが地域は動きやすい。受け入れ先を探すにも裏付けがないと探しにくい。
- (委員 1) お店プロジェクトに関して、店舗を見つけて店を出したいとあるが、牛津にセリオという店舗があり、一か所空いているスペースがある。以前、文化祭の展示などでも利用してもらっていたが、そこを牛津高校で積極的に利用してもらえないか。高校生からお金を取るつもりはない。調理はできないが、カウンターや椅子はあるのでカフェや洋服などの販売に使ってもらってもいいが。
- (会 長) 昨年度、北海道の高校で、部活でやっているレストランの話があった。昨年度、それをモデルケースにして我々は何ができるかという議論をしていたが、空き店舗の情報や具体的な話がなかったので議論が止まっていた。今回具体的な提案があった。調理ができないが、調理したものを運んできて販売は可能。取り掛かりとしてはいい話ではないか。
- (委員 3) 高校としては、今の話のようなことを進めることは可能なのか。
- (コーディネーター) 先日の牛津町まちづくり委員会でも今回の提案をいただき、学校内でも話題にいただいた、昨年度末の三笠高校の案件は現実的でない部分もあり、本校で実施できるかどうか疑問があった。今回提案のあったことについては、お店プロジェクト立ち上げる段階であり、本校がある牛津の町の中で、1か月に1回、2か月に1回という実施可能な形でやっていきたいと考えている。
- (委員 3) このようなことをメディアとかに取り上げていただくと、県外からも希望者が来るのではないか。
- (委員 1) 昔は松花堂弁当とかも販売していたが。
- (会 長) 松花堂弁当は今でも文化祭でも販売している。
- (委員 1) 産業祭でも出してみてもいいが。
- (会 長) 産業祭と文化祭は昨年同じ日だった。
- (会 長) 松花堂弁当であれば、学校でつくって運んでくることはできる。

(委員 1) 今度の日曜日も牛津駅のオープニングイベントでジャンベ部が参加するなど地域との関わりは深い。

(会 長) 昨年度はこのような具体的な意見はなかった。

地域連携活動計画について (主幹) から説明<別紙資料>

(主 幹) 第2回魅力強化委員会でお店プロジェクトの実施に向けた具体的な議論を行いたいと考えている。

令和6年度の学校評価計画は原案のとおり承認される。

(3) 学校評価計画案について<<別紙資料>>

ア) 学校評価について (主幹) から説明

イ) 学校経営方針について (校長) から説明<別紙資料>

ウ) スクール・ミッション、スクール・ポリシーについて (校長) から説明<別紙資料>

エ) 学校評価計画 (案) について (主幹) から説明<別紙資料>

(委員 4) 年度末の委員による評価では、シートの中にある成果指標を基に評価を行うことになるが、成果指標の中に数値化できていないものがあるので評価が難しい。評価するために数値があるといいが。例えば、学校運営委員会のもとに校内委員会を年度当初に開催し体制を整えるとあるが、これは委員会を作ればいいのか。会議を何回するとか数値化できないか。

(主 幹) この指標は、今年度「お店プロジェクト」などを実施するにあたり、学校魅力強化委員会で議論したものを、校内委員会で実施できる形にしたいので、校内委員会を実働できるように体制を整えたいので項目に入れている。実働できるかどうかであって、会議を何回したとかは考えていない。

(委員 4) 業務改善のところで 項目が多く評価が大変だと思うが。数値目標がきちんとあるのでできると思うが、評価の時に協力をしていただきたい。

(会 長) これはあくまでも計画なので、これから変更もあり得ると思う

(委員 1) このような評価は正直にやってもらうことが大事、できなかつたら、なぜできなかったのかを議論し改善する。これが一番大事だと思う。いじめがあっても0で報告するようなことはしないでほしい。体裁を整えず結果をそのまま出してほしいというのが希望。

令和6年度の学校評価計画は原案どおり承認される。

7 閉会

諸連絡で、第2回の魅力強化委員会は6月中旬、第3回は7月中旬に計画している。今後、日程調整のための連絡を行うこと。交通費の算定のための調査票の記入について連絡があった。

<資料>

- 令和6年度牛津高等学校事業実施計画書 (案)
- 地域連携事業計画 (案)
- 学校経営方針
- スクール・ミッション、スクール・ポリシーについて
- 学校評価計画 (案)